

【1 回目登壇】

皆様こんにちは。維新の会の辻信行でございます。

第15回定例会におきまして、質問の機会をいただきありがとうございます。先輩、同僚議員の皆さまにおかれましては、しばらくの間、ご清聴のほど、よろしくお願いいたします。

さて、9月20日から44日間にわたって、ラグビーのワールドカップ日本大会が開催されました。観客動員数のべ約170万人、出場国を中心に、多くの外国人観光客も日本にやって来られました。ある新聞社の調査によると、イベント会場において、日本を訪れた外国人観光客にインタビューを行ったところ、日本での平均滞在日数は18日間で、試合だけではなく日本各地を観光する予定である方が多かったです。

大会期間中には、東日本・北日本を中心に、台風による大きな被害が発生する中、10月には台風19号の影響により試合が中止となったカナダのチームが、開催地である釜石市において、ボランティア活動を行い、大きな話題となりました。また、先日発表された流行語大賞では、日本代表チームのスローガンである「ワンチーム」が選ばれるなど、試合での感動とともに、試合以外での様々なエピソードが、多くの感動を呼び、日本のみならず、世界中の人々の記憶に残る、素晴らしい大会となりました。

年が明ければ、いよいよ2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催が間近に迫っています。オリンピックの聖火リレーは、3月12日にギリシャにおいて聖火の採火式が行われ、ギリシャ国内での聖火リレーがあり、日本へ聖火が引き継がれます。3月26日からは福島県をスタート地点として、いよいよ国内での聖火リレーが始まります。尼崎では5月25日月曜日に聖火リレーが行われます。56年ぶりの日本でのオリンピックであり、初めての尼崎での聖火リレーです。1人でも多くの市民の方が、尼崎市での聖火リレーを見て、日本でのオリンピックに関心を持ち、オリンピック・パラリンピックを楽しみに迎えていただきたいと思います。まずは、尼崎市での聖火リレーを、市民の皆様とともに大成功させることができるように、取り組んでいきたいと思っております。

一般質問において、聖火リレーの質問をするのは、今回が最後の機会です。来年度の予算が示されるまでに、確認しておきたいことを今回は質問させていただきます。

国の資料を見ると、当初から、都道府県にお願いしたいこととして、いくつかの項目が記載されています。実行委員会の設立や運営、ランナーの公募や選考・当日の対応、交通整理や沿道整理、イベント会場の確保・会場整理・観客誘導などです。兵庫県内のリレーは県内の14の市でリレーが行われますが、各市の費用負担は、どのようになっているのでしょうか。

他の自治体の情報を見てみると、警備費の負担の重さが課題になっているという情報

もあります。尼崎市では、記念公園陸上競技場から尼崎城址公園までリレーが行われ、到着地でセレモニーが行われると聞いています。市の負担があるとすれば、スタート地点やゴール地点の会場費、セレモニーの経費、沿道整理の費用などが考えられますが、現時点では必要な費用負担について示されていません。来年度の予算についても、とりまとめが進んでいると思いますので、尼崎市での聖火リレーの実施にかかる経費の取り扱いについて確認したいと思います。

お伺いします。

兵庫県内において、聖火リレーの実施にかかる経費の取り扱いはどのようになっているのでしょうか。お聞かせください。

私は、コースの誘致にあたり、費用負担があつたとしても、56年前に中止になった歴史からも、今回尼崎市で初めての聖火リレーが行われることは大変うれしいことだと思っています。しかしながら、当然、費用対効果を考え、最少の経費で最大の効果が得られる方法を考える必要があると思います。

大阪府箕面市では、4月14日火曜日に聖火リレーが行われます。聖火を盛り上げ、スポーツの祭典を市全体で歓迎し祝うため、早い段階で様々な取組を検討し、進めておられます。その1つは、ボランティアスタッフの募集です。募集要項を見てみると、活動場所はコースの沿道やスタートとゴール地点の会場など、活動内容は沿道での聖火ランナーの走路の確保や観覧者の整理、コース沿道周辺の準備や後片付けとなっています。交通規制は警察や警備委託で対応し、ボランティアスタッフは、ランナー走路と観覧スペースの間に等間隔に並んで走路確保をしていただく予定とのことです。募集人数は先着順で800人となっており、市内に在住・在職・在学の高校生以上の方を対象に10月から来年1月末まで募集しています。箕面市のホームページでは、「聖火リレーを「かぶりつき」で見ることができます」とも記載されていました。

箕面市のこの取組は、市全体で盛り上げていこうという強い姿勢を感じました。経費の削減効果はわかりませんが、日頃から市民との協働を重視し、全市一体となって聖火リレーを盛り上げようとしている本市にも参考になることではないかと考えます。

お伺いします。

箕面市のボランティアスタッフの取組について、どのように評価されますか。また本市も同じような取組を検討されているのでしょうか。お聞かせください。

県内でのリレーの順番を考えると、本市でのリレーは午後の夕方までの時間帯で行わ

れるのではないかと思います。当日は月曜日で平日ですが、どのようなセレモニーが行われるのか、大変気になります。私が住む園田地域は、尼崎城址公園まで少し距離があり、公共交通機関で多くの市民が移動するには輸送量に限界があります。仮に、セレモニーを見に行けるとなっても、平日の午後にどの程度の市民の方が参加できるのか心配になります。

お伺いします。

本市での聖火リレーやセレモニーの時間帯については、すでに決まっているのでしょうか。またセレモニーの内容や、多くの市民の方が参加できるのかどうか、どのような検討がなされているのか、お聞かせください。

私は、セレモニーに市民の方が自由に参加できるのであれば、ぜひ交通が不便な地域からの臨時バスの運行を検討していただきたいと思っています。尼崎市で初めて行われる聖火リレーです。現地で見たいと願う市民の方が、公平に移動でき、聖火を直接見ることができるようにしていただきたいと思っています。沿道やセレモニー会場への移動手段について、市の考えをお聞かせください。

先ほど、箕面市の取組をご紹介しましたが、箕面市の取組はボランティアスタッフの募集だけではありません。今月から箕面市では、市内の小中学生を対象に、サポートランナーの募集を始めています。これは、聖火リレーにおける「地域の盛り上げ施策」のひとつとして、より幅広い年齢層の多くの方が聖火リレーに参加できるように実施されるものようです。箕面市の聖火のセレモニーは、出発地点で行われるようですが、このサポートランナーは、点火式の後、聖火ランナーの後方を、公道に出るまでの間、並走し出発式典を盛り上げるものだそうです。より幅広い年齢層の多くの方が聖火リレーに関心を持ってよう取り組んでおられます。本市もぜひ見習っていただきたいと思っています。

尼崎市で聖火リレーが行われる5月25日は、県内の7市で聖火リレーが行われ、尼崎市は7市のうちの5番目です。尼崎市でのリレーの後、聖火は、三田市、丹波篠山市でリレーをし、丹波篠山市では公式なセレブレーションも行われる予定になっています。市内全域の小中学生が、沿道で聖火リレーを見るのは、授業時間を考えても難しいのではないかと思います。市民の皆様の中には、沿道で見たくても、移動距離を考え見に行けない方も多くいらっしゃると思います。そのような状況でも、ぜひ、ひとりでも多くの市民の方に聖火が尼崎市を走るところを見ていただきたいと思っています。尼崎市に新たに住み始めた人、また長年住み続けている人、どちらにも、尼崎市が「住みやすいまち」から「本当に住んで良かった」と思っていただけのように、例えばケーブルテレビでの中継や、パブリックビューイングなどの取組を考えていただきたいと思います。市の考えをお聞かせくださ

い。

以上で、1回目の質問を終わります。

【2回目登壇】

答弁をいただき、ありがとうございます。

次に、市内での民泊の状況について、お伺いいたします。

ちょうど1年前に、全国の民泊届出件数が1万件を超えた頃、尼崎市内での届出状況などについて確認をさせていただきました。1年前は市内での民泊の届出は4件でした。観光庁において、民泊のポータルサイトが開設されており、今年11月14日時点での、全国の届出状況が掲載されていました。尼崎市での届出件数は5件となっていました。兵庫県と県内の保健所設置市の届出状況を見ると、兵庫県が30件、神戸市が64件、姫路市と西宮市が1件、明石市が0件といった状況でした。1年前と比べて、兵庫県、神戸市とも増加をしておりますが、兵庫県内の数の少なさが気になりました。全国の状況は、11月14日現在19,783件で、1年前からほぼ倍増している状況です。なお、届出件数の約半数を札幌市、大阪市、東京23区で占めている状況は、1年前と比べて、状況に変化はないようです。

また、観光庁からは11月12日に今年の8月9月の事業者からの定期報告の集計が公表されています。都道府県ごとの宿泊日数、宿泊者数、国籍別の内訳などが報告されています。ちょうど夏休み期間中であり、全国的には国内の宿泊者が約4割、海外からの宿泊者が約6割といった状況です。特徴的なのは、同じ時期に兵庫県では国内の宿泊者が6割を占めており、届出件数が少ないためか、住宅ごとの宿泊日数は全国で4位という状況です。尼崎市の民泊施設の状況はどうか、気になりましたので、民間のインターネットサイトを確認してみました。利用者の書き込みなどもあり、例えば、阪神沿線の西宮市に近い所は、夏の甲子園観戦の時期に利用されているなど、市内に13駅もある尼崎市の施設は、とても便利に利用されている印象を受けました。インターネット上の書き込みだけでは判断できないので、市が把握している状況を確認したいと思います。

お伺いします。

現在市内にある5か所の民泊施設について、その利用状況や近隣とのトラブルなどの状況を市は把握しているのでしょうか。把握しているのであれば、どういった状況であるかお聞かせください。また、新たな届出の相談など、最近の相談状況をお聞かせください。

観光庁の定期報告は都道府県別の情報であるため、尼崎市内での需要は不明ですが、隣の大阪市の届出件数の多さから、交通の利便性の高い尼崎市での需要は、国内・国外ともに、高いのではないのでしょうか。私は、現時点において、周囲の住環境への影響が少ないのであれば、民泊の対象地域を拡大するべきであると考えています。昨年、「今後の需要の増加などから、市内での対象地域の拡大などを検討する必要はないのか」といった質問をしましたが、答弁は、「近隣他都市の状況を注視しながら、必要に応じて検討していきたい」とのことでした。

お伺いします。

近隣他都市の状況を注視し、状況をどのように認識しておられますか。必要に応じて検討はされてきたのでしょうか。対象地域の拡大について、市の見解をお聞かせください。

次に、農業振興・農地保全の取組についてお伺いします。

今年度、市の農政課の職員体制が強化され、6月議会において、「市内農家のサポート力を向上させ、農業振興・農地保全に積極的に取り組んでいく」と力強く答弁いただいております。

先月の農業祭にお伺いさせていただきましたが、尼崎市で収穫した野菜を「あまやさい」と名付けられ、さっそくの取組を目にすることができました。多くの市民の方が「あまやさい」を手にしておられ、「あまやさい」をブランド化することにより、地産地消の取組が進むことを期待しています。尼崎の農地は年々減少している状況ですが、尼崎の子どもたちが大人になっても、地元でとれた「あまやさい」を、口にすることができるよう、農業者への力強い支援をお願いいたします。

先日、私が農業振興に興味を持ち、議会での質問をし続けていることを知った方から案内され、~~先日~~ JA の園田支店で行われた勉強会に参加してきました。新しい都市農地制度のセミナーで、多くの農業者の方が参加されておられ、熱心に学んでおられました。「なぜ都市に農業・農地が必要なのか」「農業振興・担い手の確保・特定生産緑地などの新たな制度」「自治体の都市農業振興の方針や支援策」など、大変充実した勉強会でした。その中で、地方公共団体による都市農業振興計画の策定状況の説明がありました。兵庫県内では、神戸市、西宮市、伊丹市はすでに計画を策定していますが、尼崎市では過去には計画があったものの継続しておらず、現在は農業振興のための計画はないとの説明がありました。法律では「計画を定めるよう努めなければならない」とされており、義務ではないようですが、農業者の方が農業を続けやすい環境を作るためにも、周りの市民にも理解してもらえるような、わかりやすい農業振興のための計画などを、ぜひ作成していただきたいと思います。市の考えをお聞かせください。

最後に、要望のみさせていただきます。

聖火が尼崎市を走るということ、どれくらいの市民の方が知っておられるでしょうか。その日が、5月25日月曜日であることを、知っておられる市民はどれくらいいるでしょうか。あとわずか5か月しかありません。必要な予算については、来年の予算議会において説明されると思いますが、市の取組が、あまりにも見えてきません。箕面市の取組を紹介しましたが、市民の方は、市から何かの発信があつて、初めて市の動きを知ることができます。「全市一体となって取り組んでいく」と繰り返し説明されてきましたが、「全市一体」が何を示しているのかが、具体的な動きが見えなければ十分に伝わってきません。

2021年のワールドマスターズゲームス関西、2025年大阪・関西万博と、今後も世界的なイベントがこの関西で開催されます。そういったイベントの開催とあわせて尼崎を活性化していくために、まずは、尼崎市での聖火リレーを市民の皆様とともに大成功させることが必要です。オリンピックイヤーを盛り上げていくために、ぜひ市民にもわかる形で、全市一体となった取組を実現してください。

5月25日までの具体的な取組については、来年の予算議会において、改めてお伺いさせていただきます。

以上で、私の質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。